

○第1回ワーキング会議の意見等まとめ【本人用調査票関連】

資料2-1

発言者	発言内容等	対応	問
井上委員	新高額福祉サービスの認知度及び課題を調べるための選択肢を加えていただきたい。	選択肢28「高額障がい福祉サービス等給付費又は高額障がい児（通所・入所）給付費」を追記するとともに、6頁に注釈を追記します。	問9
—	—	選択肢16「保育所等訪問支援」から選択肢19「医療型障がい児入所支援」を追記します。 【追記理由】 保育所等訪問は平成24年度新設され、利用者がこの3年で増加してきており、教育との連携の現場でもあり、利用者の実態やニーズについて調査する必要がある。 居宅訪問型は平成30年度新設より3年を経過し、重度かつ外出困難な障がい児の利用実態やニーズについて調査する必要がある。 児入所については、R2に在り方検討、R3に実務者会議が開催され、今後の地域移行について円滑に行っていくこととされていることから、入所児童に関するニーズや状況を調査する必要がある。	
—	—	選択肢27の老人は令和3年末をもって、老人医療の経過措置が終了となったため削除します。	
山内委員	具体例を例示すればわかりやすくなるのではないか。	障がいがあるが故での困りごとを把握するため、①サービス等を利用して思うこと、②ご本人の困りごと、③ご本人が陽性等になった場合の支援体制確保の3設問を策定しました。	問12・21・22
井上委員	ワクチン等の情報の提供が一番不安や困った点と考えるため、情報が届かなくて困ったとの選択肢を加えていただきたい。 保健所への連絡が繋がらず、援助を受けられるかどうか不安があるとの選択肢を追加していただきたい。		
溝上委員	対人関係ではなく、趣味や社会参加の機会の減少という意味の選択肢で「定期的に参加していたイベントや集まりができなくなった」の選択肢を追記するのはどうか。		

発言者	発言内容等	対応	問
山梨委員	福祉用具を借りているという選択肢を入れた方が良いのではないか。	問14において、選択肢4「福祉用具（ベッド・車いすなど）貸与」を追記します。	問15
山内委員	「運動やスポーツ」と記載するとハードルが高い印象を与えるため、例えば軽い体操、ダンスなども選択肢に入れると回答しやすくなるのではないか。	回答するハードルが下がるよう各設問に「散歩も含みます」を追記するとともに、選択肢3に「・ダンス」を追記します。 問24の設問はスポーツを行った施設から運動やスポーツを行った施設に変更します。	問23・24・25・26・27
溝上委員	社会参加としてのスポーツなのか、健康としてのスポーツなのかというところがあいまいだと思います。	回答ただく方がイメージを持っていただきやすいように問23「運動やスポーツの頻度」と問25と「運動やスポーツの種類」順番を入れ替えます。	
井上委員	成年後見制度利用支援事業の認知度が低いと思うので、認知度及び有効性の検証を行う意味で選択肢に加えていただきたい。 また、制度説明を入れるとわかりやすいのではないか。	選択肢1「成年後見制度（法定後見）」を「成年後見制度（後見・保佐・補助）」に、選択肢3「あんしんさぼーと事業」を「あんしんさぼーと事業（日常生活自立支援事業）」に、選択肢6に「成年後見制度利用支援事業」を追記します。	問46
芦田委員	選択肢1の「成年後見」を「後見・保佐・補助」などにする方がわかりやすく、選択肢3は愛称であるため、正式な事業名称に修正するのが良いのではないか。		
芦田委員	選択肢3の「費用が心配だから、利用したいと思わない」に注釈を入れるのはどうか。	選択肢3「費用が心配だから、利用したいと思わない」に注釈を追記します。	問47
三田委員	今使っている人はどの様に回答すれば良いのか。	選択肢6「既に利用している」を追記します。	
溝上委員	本人用は本人や家族に聞いているが、何故家族用は本人のみにしか聞かないのか。	ご本人の支援の観点から希望を把握していきたいことから、「ご家族の」を削除します。	
星沢委員	ろう者向けの相談先を調査票に記載いただきたい。	調査票に同封する依頼書に、手話での説明を希望する場合は、（一財）大阪市身体障害者団体協議会及び区役所（遠隔手話通訳）で対応する旨記載します。	—

○第1回ワーキング会議の意見等まとめ【家族用調査票関連】

資料2-2

発言者	発言内容等	対応	問
芦田委員	小さな子どもでもできるのが見守りや声かけであることから、選択肢11を選択肢1に移動してはどうか。	選択肢1を「見守り、声かけ」に改めるとともに、その他の選択肢についても回答が多いと想定される順に変更します。	問13
三田委員	ヤングケアラーの方が誰を介護しているのかを追加した方が良いのではないかな。	ヤングケアラーの方が誰を介護しているのかを把握する設問を策定します。	問14
大野委員	家族自身への設問として、再度検討いただきたい。	ご家族の困りごとを確認する目線で、①ご家族が陽性等になった場合の支援体制確保、②ご家族の困りごとの2設問を策定します。	問20 問21
長谷川委員	本人がどう思ったかは、本人用で書けるのではないかなと思うことから、親としてどういうところに困ったであるとか、そっちの方が必要ではないかな。		
井上委員	成年後見制度利用支援事業の認知度が低いと思うので、認知度及び有効性の検証を行う意味で選択肢に加えていただきたい。 また、制度説明を入れるとわかりやすいのではないかな。	選択肢1「成年後見制度（法定後見）」を「成年後見制度（後見・保佐・補助）」に、選択肢3「あんしんさぽーと事業」を「あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）」に、選択肢6に「成年後見制度利用支援事業」を追記します。	問37
芦田委員	選択肢1の「成年後見」を「後見・保佐・補助」などにする方がわかりやすく、選択肢3は愛称であるため、正式な事業名称に修正するのが良いのではないかな。		
芦田委員	選択肢3の「費用が心配だから、利用したいと思わない」に注釈を入れるのはどうか。	選択肢3「費用が心配だから、利用したいと思わない」に注釈を追記します。	問38
三田委員	今使っている人はどの様に回答すれば良いのか。	選択肢6「既に利用している」を追記します。	
溝上委員	本人用は本人や家族に聞いているが、何故家族用は本人のみにしか聞かないのか。	ご本人の支援の観点から希望を把握していきたいことから、本人用調査票の整理を諮ります。	